

平成25年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成25年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の推薦入学面接が2月8日（金）、学力検査が3月6日（水）、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月6日（水）、学力検査が3月18日（月）に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

平成25年3月の県内中学校卒業見込者数（前年比75人の減）を考慮し、全日制課程の定員を12,555人（前年比40人の減、1学級の減）とした。

2 平成25年度入学者選抜について

(1) 推薦入学

推薦入学については、全日制課程の高校57校118系・科で実施され、実施しない高校は2校2科であった。推薦入学においては学力検査を行わず面接をもってこれに代えるものとしているが、40校89系・科では作文を課しており、16校24科では、小論文を課している。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から学力検査の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施して

いる。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであるが、今年度の実施校は3校3科であった。教科別にみると、国数英の3教科を実施したのが2校2科、国数英社の4教科を実施したのが1校1科であった。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍する教科間の傾斜配点を実施した。

学力検査受検者に対する面接は平成元年度から導入しているが、今年度は26校84系・科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別措置については、推薦入学と同時に行う特別選抜検査で26名が合格した。

定時制課程において、満20歳以上の志願者について学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる制度では、7名が合格した。

以下、各教科ごとの学力検査問題（全日制）について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程10校から1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 学力検査 受検・合格状況の推移

	平成25年度				平成24年度				平成23年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	推薦入学	学力検査	フレックス特別	学力検査	推薦入学	学力検査	フレックス特別	学力検査	推薦入学	学力検査	フレックス特別	学力検査
募集定員	12,555		640		12,595		640		12,555		640	
受検人員	2,826	11,997	160	310	2,692	12,049	157	315	2,736	12,018	214	434
受検倍率	0.99	1.22	1.33	0.59	0.94	1.21	1.31	0.59	0.96	1.22	1.78	0.83
合格人員	2,527	9,657	116	300	2,403	9,834	111	309	2,490	9,756	120	397
合格倍率	1.12	1.24	1.38	1.03	1.12	1.23	1.41	1.02	1.10	1.23	1.78	1.09

※ 受検倍率=受検人員÷定員， 合格倍率=受検人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する事項に係る能力、表現する能力、理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識及び理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉え、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取るなどして自分の考えをまとめて、表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、表現の違いに触れながら、自分の考えを、理由を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識にとどまらず、言葉の意味やまわりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立ててほしいということを願って出題した。

1 の漢字の読みの問題は、平均正答率は83.8%、**2** の漢字の書きの平均正答率は70.0%であった。漢字の読みでは、(1)企画、(2)迎える、(3)派遣が正答率9割を超えたが、(4)諭すは45.1%であった。書きでは(1)座席、(2)照らすが8割を超えたが、(5)散策が37.2%と低かった。日常生活で使用できる語彙を広げるためにも、漢字学習の重要性を確認することが必要である。

7 の俳句の季節94.3%、**5** の敬語に関する問題の74.8%についてはいずれも高い正答率であり、次いで**6** の熟語の構成に関する問題、**3** の「ない」の識別、**4** の紛らわしい表現の順であった。日本語全般に関して、幅広く問題意識を持って学習に取り組みたい。

2 は、「正法眼蔵随聞記」を素材として出題した。孔子と藤原頼通の2つのエピソードを通して、うわべばかりを見て判断する愚かさを説いた話である。仮名遣い、動作の主体(主語)、文の意味、内容の把握などを問う問題を設定した。

2 の主語の問題が53.8%、**4** の「鼎殿」が何を見て「恐れ入って逃げ」たのかを記述する問題が17.0%と低い完全正答率であった。その他の設問については、いずれも正答率が5割を超えていた。

主語が省略される古文の特徴を踏まえ、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等を継続したい。また、言語文化を継承するという観点からも、古文固有の言葉に注目し、古文特有の話の面白さを味わうなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、港千尋の「書物の変 グーグルベルグの時代」を素材として出題した。記憶のための技術として「痕跡」を利用したことがその始まりとされる、書物について論じた文章である。

導入部における内容を把握する設問**1**については、正答率が69.0%と高かった。段落の内容を問う設問**5**については51.2%と、他の選択肢問題に比べてやや低かった。また、本文から読み取れることのできる筆者の考えを問う設問**6**は79.9%と高い正答率であった。完全正答率が2割前後となった記述問題については、本文の表現を適切に用いるなどして説明する力が求められる。

説明的な文章では、主張と具体例を区別して読んだり、根拠を抜き出したりするなどして、筆者が本文を通して何を伝えようとしているか、全体的な要旨を正確に読み取る力を養っていく必要がある。併せて、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、話し合ったりするなどして、他の言語活動との関連を深めたい。

4 は、山本周五郎「青べか物語」を素材として出題した。自分の不用意な一言によって少年たちの心に狡猾さや食欲を生み出してしまったことに、主人公である「私」が気付かされる内容となっている。主観によらず、場面設定を踏まえ、それぞれの人物の心情や言動を押さえながら読み進めていくことが要求される。

1 の場面設定に関する設問は67.1%、**2** の主人公の心情を問う設問は85.9%と高かった。一方、これら選択問題の正答率が高いのに対して、場面の展開を押さえる設問**4**は13.0%、主人公の気持ちがどのように表現されているかを記述する設問**5**は8.2%と完全正答率が低かった。**5** の設問においては、単なる文の抜き出しではなく、自分の言葉を用いてまとめる必要がある。

文学的な文章は、各自の様々な読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が必要となる。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとにして意見を述べたりといった学習活動によって、確かな読みにつなげていきたい。

5 の作文は、全校生徒に読書のすばらしさを伝えるために、図書委員会で候補に上がった6つの標語から1つを受検者が選択し、比喩表現について説明を加えながら、選択した理由を説明するものであり、これらの内容を適切に書く能力を評価するものである。

比喩表現が例えている内容を説明したり、表現がそれを見る者に与える印象や効果等を説明したりしながら、自分の考えを記述することを求めている。普段の生活の中において、言葉に対する意識を高め、言語感覚を磨くとともに、自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、事実と意見の区別や、根拠や理由の整理、効果的な表現などについて確認し、書く過程の学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

<平25>

国語学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	97.6 %	2	1	84.4 % (85.2)	4	1	67.1 %		
		(2)	97.7 %		2	53.8 %		2	85.9 %		
		(3)	96.9 %		3	61.4 %		3	53.3 % (54.5)		
		(4)	45.1 %		4	17.0 % (31.8)		4	13.0 % (36.2)		
		(5)	81.7 %		5	53.8 %		5	8.2 % (44.8)		
	2	(1)	88.2 %	3	1	69.0 %		5	6	43.3 %	
		(2)	86.8 %		2	20.8 % (23.9)	(96.6 %)				
		(3)	70.1 %		3	17.8 % (67.7)					
		(4)	67.8 %		4	59.5 %					
		(5)	37.2 %		5	51.2 %					
	3	61.8 %	6	79.9 %							
	4	33.1 %									
	5	74.8 %									
	6	69.7 %									
	7	94.3 %									

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連に留意して出題した。
- 2 基礎的・基本的内容を3分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的理解や思考力、判断力、表現力等をみるようにした。
- 3 3分野の総合問題として〔2〕を出題し、社会的事象を諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力をみるようにした。
- 4 各分野ごとに論述問題を出題し、社会的事象に対する見方や考え方と、それを整理し表現する力をみるようにした。
- 5 地図・統計・写真・年表等を正しく読み取る力、それらをもとにして考察し表現する力をみるようにした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的分野	歴史的分野	公民的分野	合 計
選 択	6(12)	6(12)	4(8)	16(32)
記 述	6(12)	7(14)	7(14)	20(40)
論 述	3(12)	2(8)	2(8)	7(28)
合 計	15(36)	15(34)	13(30)	43(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

〔1〕は、広く地理、歴史、公民の各分野についての基礎的・基本的な知識及び理解度をみるようにした。記述の問題の正答率が昨年度よりも低い結果となった。

〔2〕は、郷土の調べ学習から「しもつかれ」を素材に、地理、歴史、公民の各分野にわたる理解度をみた。論述問題の4は、複数の資料から、北関東自動車道の全線開通に伴う人々の移動の変化を考察し、表現する力をみる問題であった。新学習指導要領では、習得した知識や概念や技能を活用して、社会的事象について自分の考えをまとめて論述することが重視されている。この点を踏まえた出題であったが、3つの資料の活用が求められたため、難易度が高かった。

〔3〕は、身近な地域調査を素材にして、地形図や雨温図の読み取りを中心とした出題であった。地形図

の読み取りには課題がみられた。一方で雨温図の読み取りについては、比較的正答率が高い結果となった。しかし、読み取ったことを活用して事象を説明することが求められる論述問題の2(2)では、正答率は3割程度となった。日常の学習活動において、資料を有効に活用して説明したり、論述したりすることが求められる。

〔4〕は、世界地理に関する問題である。1は東南アジアを中心とした世界地図を活用して、世界の自然地理についての基礎的な知識を問う問題であったが、正答率は6割程度であった。基礎的・基本的な知識の習得については、新学習指導要領においても重視されているところである。2では、統計資料を読み取る問題であったが、正答率は8割を超えた。一方で、統計資料を活用する論述問題3では、正答率は1割程度であり、正しく資料を読み取って、説明することができていない受検者が多くみられ、正答率は1割程度となった。

〔5〕は、栃木にゆかりのある人物を素材にして、古代から近世までの歴史的事象の理解度をみた。論述問題の5は、大阪に蔵屋敷が多く置かれた理由を問う問題であったが、江戸時代の大阪の役割や蔵屋敷の役割を理解できていない解答が多くみられた。単に歴史用語を覚えるのではなく、歴史的事象の背景やそれが与えた影響等を考察していくことが求められる。

〔6〕は、明治から現代までの歴史についての問題である。戦後の問題を2問出題した。3は、年代の並べ替えの問題であり、正答率は4割程度となった。それぞれの出来事が起こった年号を覚えるのではなく、歴史の流れをきちんと把握しているかどうか問われる問題である。各事象を歴史の大きな流れや歴史的背景の中でとらえていく学習が今後とも望まれる。

〔7〕は、公民的分野のうち、日記を素材にして日本や世界の経済についてを問う問題であった。論述問題の3は、日本社会の特色としての少子高齢化について、年金の点から考察する問題であった。年金の一人当たりの受給額と支給額の変化を表すグラフを活用して、日本の高齢社会について適切に表現する力をみる問題で、正答率は5割程度であった。

〔8〕は、国民の政治参加をテーマとした政治の問題であった。新学習指導要領から学習するようになった裁判員裁判に関する問題については、その導入の目的について答える問題で、正答率が6割となった。また、論述問題の4では、「一票の価値」の格差の問題を問うものであったが、正答率は1割程度であった。

社会学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率		
1	1	(1)	64.1 %	3	1	(1)	43.5 %	6	1	73.9 %
		(2)	80.6 %			(2)	56.1 %		2	64.1 % (72.6)
		(3)	94.1 %			(3)	64.3 % (64.3)		3	41.6 % (46.9)
		(4)	61.6 %		2	(1)	82.7 %		4	14.0 % (54.1)
	2	(1)	59.9 % (60.1)			(2)	32.3 % (70.8)		5	66.3 % (67.8)
		(2)	70.5 % (78.3)		4	1	(1)	79.6 %	7	1
		(3)	63.2 % (64.9)	(2)			59.6 % (70.5)	2		61.8 % (62.2)
		(4)	34.7 % (36.9)	(3)			55.9 % (56.2)	3		49.0 % (72.1)
2	1	52.4 %	2	88.8 %	4	57.6 %	8	1		47.1 %
	2	35.7 % (37.3)	3	10.3 % (40.7)	2	22.8 % (23.6)				
	3	(1)	57.6 % (60.2)	5		1		40.4 % (41.2)	3	(1)
		(2)	32.1 % (33.1)		2	50.5 %		(2)		44.3 % (44.5)
	4	14.6 % (58.6)	3		45.2 % (47.3)	4		12.8 % (53.6)		
4	51.3 %	4	51.3 %		5	64.0 %				
	2.6 % (49.7)	5	2.6 % (49.7)							

※ () 内は部分正答も含めた割合

数 学

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即し、数学の基礎的な概念や原理・法則の理解力、数学的な表現・処理能力及び事象を数理的に考察する能力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、資料の活用の4領域から満遍なく出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式の問題を通して、数学全般に関わる基本的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、数学的な思考力、表現力及び処理能力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量や基本的性質に関する証明問題を通して、直観的な見方、論理的思考力及び論証能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的な問題を通して、関数的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 5 資料の活用の領域では、確率や資料の分析の基本的な問題を通して、確率の考え方や統計的な見方、考え方を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、資料の活用のうち、いくつかの領域からなる融合問題を通して、事象の中にひそむ関係や法則を数理的に考察し、数学的表現や処理の仕方を活用して、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

〔1〕は、各領域における基礎的・基本的な学習内容の理解力及び計算力をみる問題であり、平均正答率は71.1%であった（昨年度は73.8%）。全般的には良好であったが、12、14の正答率が60%を下回っており、日頃から資料の活用や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付くよう、繰り返して学習することが大切である。

〔2〕は、二つの領域（図形、関数）における理解力及び処理能力をみる基本的な問題であった。1は直方体の対角線の長さを求める問題、2は関数の問題、3は作図問題であった。それぞれの正答率は53.3%、42.6%、54.7%であった。〔1〕と同様に、基礎的・基本的な内容について繰り返して学習することが重要である。なお、作図については、線分の垂直二等分線等の基本的な作図の方法を理解し、それを具体的な場面で活用することが

大切である。

〔3〕は、思考過程や計算過程を論述させることにより、数学的な処理能力をみる問題であり、1は、長方形の紙を用いてふたのない直方体の容器を作る問題、2は、数表について、その規則性を文字を用いて説明する問題であった。各問の正答率は1が16.1(40.6)%, 2は20.5(38.0)%であり（()内は部分正答も含めた割合）、特に1については、教科書で扱っている基本的な問題であるにもかかわらず、正答率が低かったことはとても残念な結果であった。日頃から、基礎・基本を大切にして、文字式を目的に応じて使い、事象を能率的に処理する能力を身に付けさせたい。

〔4〕は、図形についての基本的な証明や計量問題を通して、図形の領域における論理的思考力をみる問題であった。1は三角形の合同を用いて二つの線分の長さが等しいことを証明する問題であった。この問いも基本的な問題であるにもかかわらず、正答率は24.3%と非常に低かった。大きさの等しい角や長さが等しい辺に印を付けるなど、演繹的な推論の方法を身に付けたい。また、2は、円周角の性質を用いて、角の大きさや、相似な三角形を用いて線分の長さを求める問題であった。正答率はそれぞれ、(1)が55.5%、(2)が4.5%であり、今後は、(2)のような計量問題にも慣れ親しむ学習活動も大切にしてほしい。

〔5〕は、具体的な事象（親子でランニングをするという素材）を通して、二つの変数の関係を見出し、考察し表現する能力をみる問題であった。1の正答率は54.7%、2は20.3(41.8)%であり、粘り強く解答する様子がかがえた一方で、3は正答率は低かった。

〔6〕は、円柱型の積木を重ねて新たな立体を作る操作を通して、複数の領域における理解力、思考力及び数学的な処理能力をみる問題であった。1の正答率が53.7%、2が13.9%と、応用力が必要なやや難しい問題であったにもかかわらず、よく取り組んでいた。3、4は正答率が低く、無答もかなり見られた。

〔5〕や〔6〕のような応用問題に取り組むことにより、日常的な事象を数理的に考察し、問題を解決する能力を身に付けて欲しいと考えている。

そのためにも、まずは、〔1〕をはじめ、〔2〕(1)、〔3〕(1)、〔4〕(1)のような基礎的・基本的な問題を理解し確実に解くことを目指した、各学校における学習活動が充実されることを望みたい。

<平25>

数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問	題	正答率	問	題	正答率	問	題	正答率
1	1	97.2 %	2	1	53.3 %	6	1	53.7 %
	2	69.4 %		2	42.6 %		2	13.9 %
	3	78.4 %		3	54.7 % (65.5)		3	2.2 % (13.1)
	4	78.7 %	3	1	16.1 % (40.6)		4	1.2 % (7.7)
	5	79.2 %		2	20.5 % (38.0)			
	6	70.7 %	4	1	24.3 % (64.0)			
	7	75.0 %		2	(1)	55.5 %		
	8	67.3 %	(2)		4.5 %			
	9	83.2 %	5	1	54.7 %			
	10	79.6 %		2	20.3 % (41.8)			
	11	65.2 %		3	1.9 %			
	12	32.2 %						
	13	64.7 %						
	14	53.9 %						

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、第1分野（物理的領域、化学的領域）、第2分野（生物的領域、地学的領域）の2分野（4領域）の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活との関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識・理解及び関心をみるようにした。
- 3 基礎的な観察、実験についての知識・技能をみるようにした。
- 4 観察、実験を通して、自然の事象を科学的に調べ、実証的、論理的に考察する力をみるようにした。
- 5 自然の事象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の平均の正答率が70.6%、記述問題で56.0%であった。4の問題は他の問題に比べて正答率が41.8%と低かった。空気からガラスへ進むときの入射角と屈折角との関係を参考にし、その逆を考える発想が必要である。7の問題は、正答率が35.7%と低かった。日常生活の中での体験を通して、科学的な事象を理解させることが求められる。

2 は、白い粉末状の物質の同定に関する問題である。2の問題では、正答率が2割を下回った。それぞれの物質の性質を有機物と無機物という視点から考えることが必要である。3では、イオン式を理解し、基本的な物質の電離の様子を式を用いて表現する力をみた。4では、溶解度などの違いから物質を分離する方法を判断し、科学的な語句を用いて適切に表現することが求められる。

3 は、日本でも観察された日食に関する問題である。2の問題では、正答アの次にウを選択する割合が高かった。問題文から、日食が観察された状況を把握するようにしたい。3の問題では、実際の天体の位置関係をモデル化し、比を利用して計算する力をみた。問題文中の図を利用し、単位の換算に注意しながら計算する力が求められる。

4 は、植物の根の成長に関する問題である。1では、正答率が8割を超えており、細胞分裂の実験におけるうすい塩酸の使用目的はよく理解されていた。4については、染色体が複製される様子を問う問題であるが、正答率が29.8%と低かった。教科書の図や記述をよく読み、染色体の変化に注目させるなど、細胞

分裂のしくみを正しく理解することが大切である。

5 は、物体にかかる浮力や水圧の問題である。1については、圧力の意味を理解しておく必要がある。2, 3については、まず実験結果であるグラフを正確に読み取ることが求められる。その上で、2については浮力の意味と、3についてはもう一つの実験結果と結びつけて、浮力と水圧との違いを見いだすことが求められる。実験の現象がなぜ起きたのかを考えることが重要であり、普段の学習から実験のねらいを明確にし、ある現象が起こる原因や理由を考えることが大切である。

6 は、動物の体内を、刺激が伝わっていく経路に関する問題である。2においては、①が74.1%、②が58.5%、③が38.5%と正答率が下がっていく傾向が見られた。刺激を受け取る感覚器官によって、信号が伝わる経路が異なる場合があることに注意する。3の論述では正答率が46.3%であったが、中間点を含めると60.2%まで上昇する。論述問題では、問題で求められていることに対して、不足無く正確に記述することが大切であり、普段の実験等においても、結果の考察を文章でまとめるなどの学習活動が必要である。

7 は、鉄と硫黄の化合に関する問題である。1では正答率が52.0%で、正答エの次にアを選択する割合が高かった。化合と分解の違いを、代表的な反応例をおさえながら理解しておくことが大切である。2, 3では、化学変化において、反応する物質の質量の割合に規則性があることに注意し、磁石へ引きつけられる様子からどちらの物質が完全に反応したかを考える力をみるようにした。いずれも、正答率は3割を下回った。観察・実験の結果を分析して解釈するなど、科学的に探究することが大切である。

8 は、火成岩のでき方を、モデル実験をもとに考える問題である。大問全体の正答率が67.1%と全体を通して最も高かった。2においては、似た用語との取り違えが多かった。3については、中間点を含めると、①から③まで7割を超える正答率であり、モデル実験と実際の岩石のでき方の関係が良く理解されていた。

9 は、電熱線の発熱に関する問題である。1, 2では、電流、電圧、抵抗、電力の基本的な理解力をみるようにした。2では、抵抗を並列につないだときの電流、電圧の関係を理解する必要がある。抵抗のつながり方による、電流、電圧に関する規則性のちがいを、普段の基本的な実験を通して確認する事が大切である。4では、正答率が18.0%と全設問中最も低かった。発生する熱量は電力に比例し、電力は電流に比例する。抵抗を直列につないだとき、流れる電流がどう変化したかによって発生する熱量が計算できる。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率		
1	1	78.9 %	3	1	83.3 %	6	3	記号	75.5 %	
	2	87.7 %		2	41.2 %			役割	46.3 % (60.2)	
	3	73.8 %		3	20.6 % (21.9)	7	1	52.0 %		
	4	41.8 %		4	52.2 %		2	22.4 % (32.3)		
	5	69.9 % (75.7)	4	2	1	81.7 %	8	3	3	25.1 % (25.2)
	6	72.2 % (73.8)			①	59.7 % (62.3)			1	1
	7	35.7 % (37.2)		②	52.0 % (54.4)	2				49.5 % (55.9)
	8	46.1 % (48.5)		3	71.0 % (71.0)	3	①	70.1 %		
2	1	36.0 %	4	29.8 %	9		1	抵抗	72.8 % (72.8)	
		19.8 % (36.2)	5	1					75.6 %	②
	3	①		34.5 % (35.1)		2		50.0 % (50.0)	電力	58.8 % (58.8)
		②	37.3 % (37.9)	3	47.0 %	2	41.0 % (41.3)			
	4	③	40.8 % (41.4)	6	2	1	72.4 % (74.7)	3	41.0 % (41.4)	
		X	22.4 % (25.8)			3	①	74.1 %	4	18.0 % (18.0)
	Y	47.0 % (50.9)	②		58.5 %		2	③	38.5 %	

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの言語活動の4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、話されることの内容を聞き取る基礎的な力を主としてみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語でコミュニケーションを図る力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄についての音声によるコミュニケーションを素材として扱った聞き方の問題で、3問構成とした。大問全体の正答率は、56.6%であった。1は短い英文を聞いて適切に応答する力をみる問題である。4問の平均正答率は74.8%であった。2は英語の対話を聞いて、内容を理解する力をみる問題であり、小問ごとに2つの設問に答える形式である。平均正答率は65.0%で、それぞれの平均正答率は(1)が75.4%、(2)が76.6%、(3)が43.0%であった。3は聞き取った内容を相互に関連づけて対話全体を理解する力をみる問題であり、5問の平均正答率は31.9%であった。話された英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力や、必要とされる情報を正確に聞き分ける力等の育成が望まれる。今後もコミュニケーション能力を育成するという観点から、聞く力を高めていくことが大切である。

2 は、基礎的・基本的な事項についての理解度をみる問題である。動詞の時制や基礎的な応答などを素材にしている。9問の平均正答率は64.6%であり、(1)の39.8%を除き、基礎的・基本的な事項についての定着がうかがえた。今後とも英語力の支えとなる基礎的・基本的な文法事項については、確実な定着を心がけてほしい。

3 は、対話の流れを把握しながら要点をとらえる力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題した。今年度は「ポストバス」についての話題を中心として日本とスイスにおける文化の違い等を素材にした対話文を出題した。3問の平均正答率は43.9%であった。1の下線部が指す内容を答える問題は、正答率42.5%であった。2、3の文脈から概要をとらえて解答する問題の正答率は、69.7%、31.7%であった。

4 は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。1は英語の授業の中での自己紹介と質問を英語で表現する問題である。小問2問の完全正答率の平均は41.6%であり、中間点を含めると55.8%であった。2は絵をヒントに文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題である。小問2問の完全正答率の平均は36.1%であり、中間点を含めると58.6%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を自ら考え書くことが求められる。3は、与えられたテーマについて表現する力をみる問題である。今年度は、高校生になったらやってみたいことをテーマとした。完全正答率は9.2%であったが、中間点を含めると81.0%であった。今後も、書くことについては、自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える力を育成するとともに、言語材料についての理解の定着を確実に図ることによって、英文の構成力・表現力を身につけることが重要である。

5 は、物語文による読解問題であり、文脈に沿って内容を理解する力、概要や要点をとらえる力をみるものである。今年度は、小学生の時の夏休みに、親友の優しさにふれ、主人公の心が成長していく様子を描いた物語を題材にした。4問の平均正答率は45.1%であった。2は、文中から、主人公の心情をとらえ、日本語で具体的に説明する問題である。英文の中から適切な部分を見つけて、内容を説明できる力を高めることが大切である。

6 は、説明文による読解問題である。今年度は傘の歴史と、現代の傘に関する問題点について述べた説明文を出題した。4問の平均正答率は39.7%で、中間点を含めると49.1%であった。まとまった英文を読んで、要点をとらえ、概要をまとめる力を身につけることが大切である。

英語学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	82.0 %	2	1	39.8 %	4	1	(1)	44.4 % (58.8)	
		(2)	72.0 %		2	62.5 %			(2)	38.8 % (52.8)	
		(3)	80.3 %		3	69.2 %		2	(1)	29.8 % (62.3)	
		(4)	65.0 %		4	58.0 %			(2)	42.3 % (54.9)	
	2	(1)	①		66.5 %	5	67.3 %	3	3	9.2 % (81.0)	
			②		84.3 %	6	88.4 %		5	1	59.8 %
		(2)	①		72.2 %	7	70.0 %			2	24.2 % (38.6)
			②		80.9 %	8	70.6 %	3	31.6 % (31.9)		
		(3)	①		9.5 %	9	55.6 %	4	55.0 %		
			②	76.5 %	3	1	42.5 % (60.5)	6	1	42.8 % (55.0)	
		(1)	34.9 % (34.9)	2		69.7 %	2		57.0 %		
	(2)	50.4 % (66.7)	3	①		25.7 % (25.8)	3		13.6 % (39.2)		
	(3)	5.0 % (35.6)		②		37.6 % (37.6)	4		45.3 %		
	(4)	36.3 % (48.9)									
	(5)	32.7 % (41.7)									

※ () 内は部分正答も含めた割合